

キロサ牧場における 耕畜連携の取組

農業生産法人 有限会社キロサ肉畜生産センター

農事組合法人 北岩手飼料組合

村山 義幸

令和8年1月30日

牧場紹介



★所在地 岩手県岩手郡岩手町

★牧場 岩手町(本社・岩手牧場)、一戸町(西岳牧場)
八幡平市(八幡平西根牧場)
青森県南部町(青森南部牧場)

★沿革 1978年 キロサ牧場設立
1995年 牛種の単一化:交雑種(F1)転換完了
2012年 玄米育ち 岩手めんこい黒牛立ち上げ
2018年 雌牛限定「岩手めんこい姫牛」立ち上げ

★社員数 34名(2025年12月末時点)

★取引先 伊藤ハム米久HD(株)

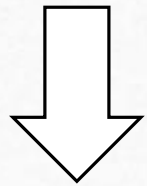
★売上高 4,065,000千円(2025年3月期)

県別飼養頭数

2025.12月末時点

	飼養戸数 (戸)	飼養頭数 (頭)	割合 (%)
北海道	5	969	12.1
青森	3	1,325	16.6
岩手	14	3,793	47.3
秋田	2	709	8.9
山形	3	472	5.9
山梨	3	738	9.2
合計	33	8,006	100.0

堆肥生産と販売状況



年間約10,400トン
の堆肥を製造

年度	販売数量(トン)
令和3(2021)	5,808
令和4(2022)	5,298
令和5(2023)	4,832
令和6(2024)	4,849
令和7(2025)	2,033



取り組み事例

- 株式会社西部開発農産(岩手県北上市)との飼料用米生産
- 岩手県一戸町での堆肥製造委託
- バイオ炭の取り組み
- 岩手県二戸市エリアでのデントコーン生産
- 将来的に取り組みたいこと

堆肥と飼料用米による循環型農業

単位:トン



年度	堆肥販売	飼料米購入
平成23(2011)		80
平成24(2012)	50	220
平成25(2013)	853	261
平成26(2014)	1,584	300
平成27(2015)	1,432	300
平成28(2016)	2,285	300
平成29(2017)	2,128	252
平成30(2018)	2,402	272
令和1(2019)	2,128	230
令和2(2020)	2,128	225
令和3(2021)	1,530	195
令和4(2022)	1,482	234
令和5(2023)	1,757	216
令和6(2024)	1,112	205
令和7(2025)	638	223

一戸町における堆肥製造委託

- 従来の成分表

完熟堆肥	検査結果(%)
窒素全量	1.3
リン酸全量	1.9
加里全量	4.3
C/N比	14

- 副資材:オガクズ・バーク



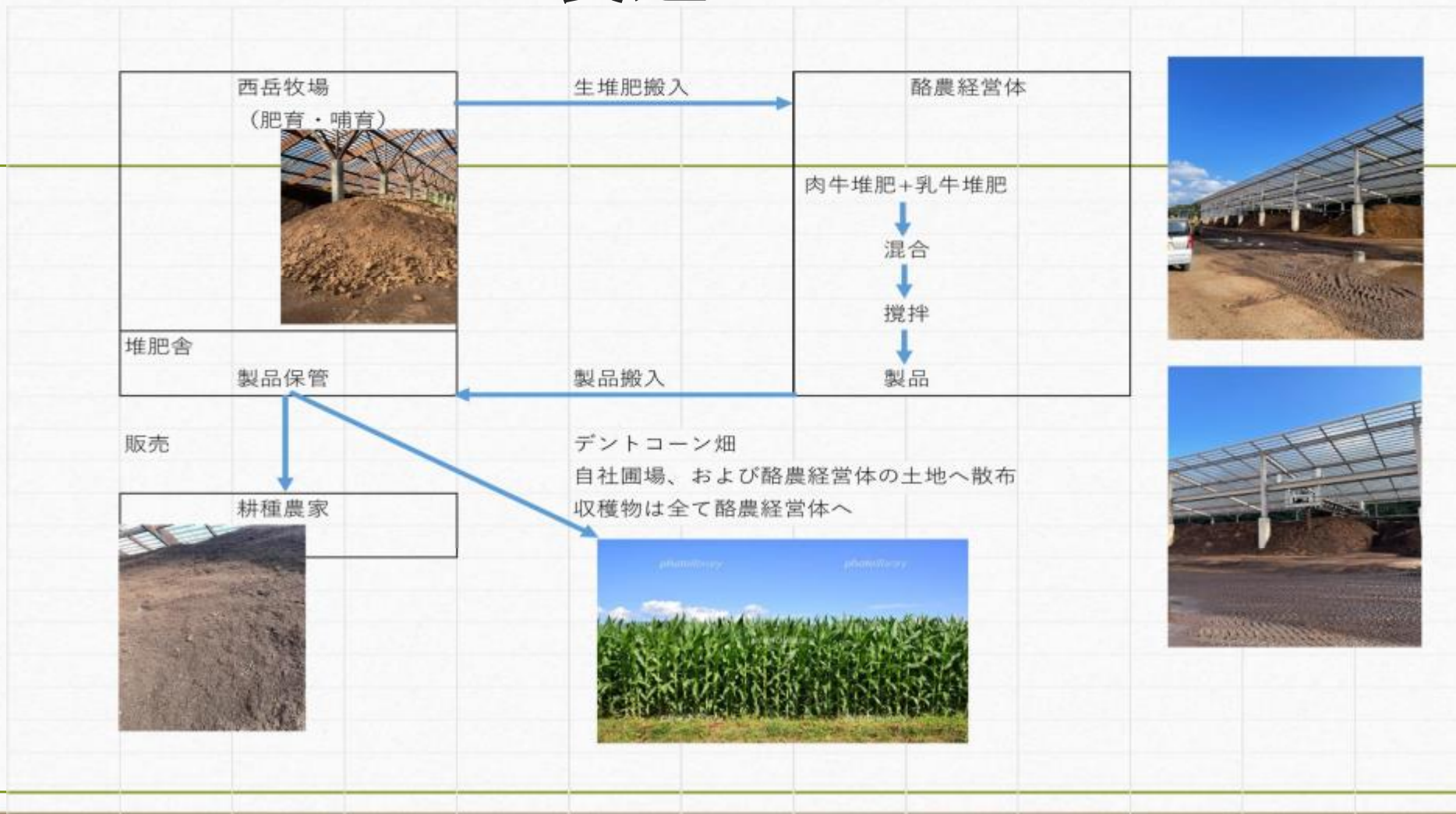
- 委託製造分の成分表

乳肉混合完熟堆肥	検査結果(%)
窒素全量	1.3
リン酸全量	0.4
加里全量	4.6
C/N比	15

- 副資材:オガクズ・バーク



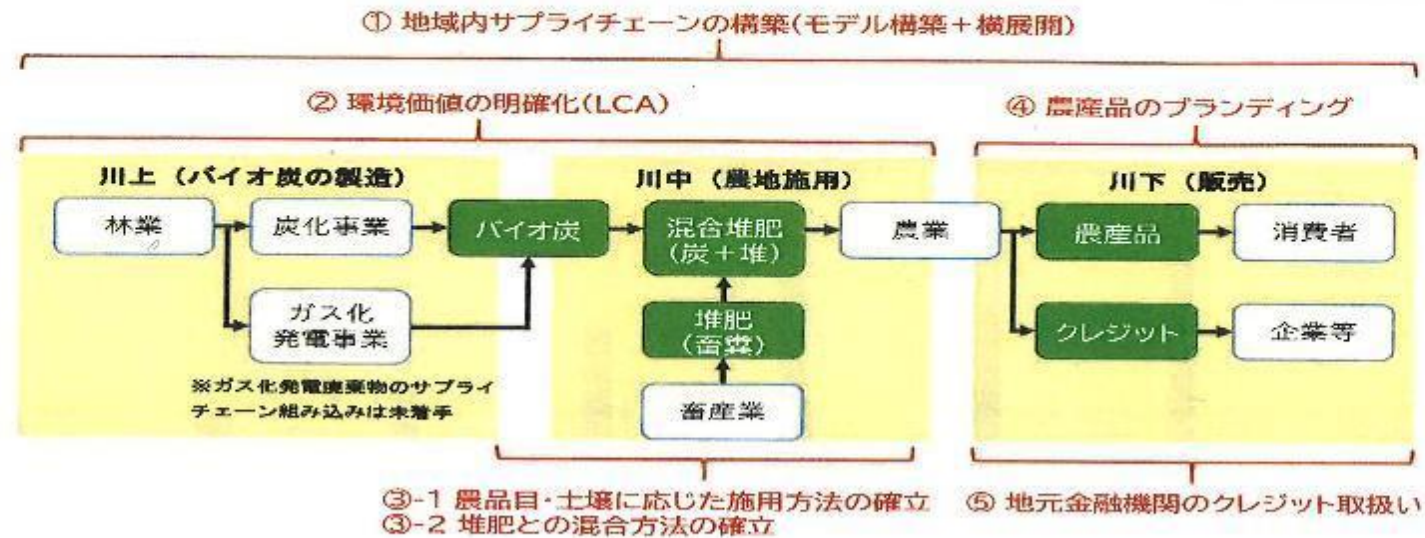
製造フロー



バイオ炭の取り組み

- キロサ牧場は「岩手県バイオ炭活用協議会」の正会員です。

取組の全体像とハードル



バイオ炭を活用した地域循環型社会への挑戦 - 岩手県・久慈市 - (2025年8月5日掲載)

有限会社谷地林業は、岩手県久慈市に本社を構える1916年創業の老舗林業会社です。100年以上にわたり、木炭製造をはじめとする多様な事業を通じて地域の活性化に取り組んできました。2023年からは、地球環境に配慮した持続可能な社会の実現を目指し、林地残材を利用した「バイオ炭」の生産と活用に本格的に取り組んでいます。

バイオ炭は、木材や枝葉などのバイオマスを350℃以上の高温で炭化したもので、農地に施用することで土壌改良や炭素貯留に効果があり、国の「J-クレジット制度」にも認証されています。

谷地林業では、森林整備の過程で発生する未利用の枝葉をチップ化し、密閉式炭化炉で炭化することで、安定した品質のバイオ炭を製造しています。これにより、林業と農業がバイオ炭を通じて連携し、地域資源を循環的に活用する新たな仕組みが生まれつつあります。

2024年9月には、産学官で構成する「岩手県バイオ炭活用協議会」が設立されました。谷地林業をはじめ、農家、畜産業者、企業、行政機関などが参加し、バイオ炭の普及と活用を目的に、実証実験や課題解決に向けた検討が進められています。実証では、バイオ炭と牛ふん堆肥を混合して圃場に施用し、土壌の質の改善や作物の収量向上といった効果の検証が行われています。これらの取組は、持続可能な農林業の実現に向けた重要な一歩となっています。

代表取締役の谷地謙氏は、「バイオ炭の製造にはまだ多くの可能性がある。炭化の過程で発生する可燃性ガスや熱の活用、さらに、もみ殻やおから、りんごの皮など地域に眠る未利用資源の炭化によって用途はさらに広がる。私たちが木炭製造で培ってきた炭化技術を活かし、脱炭素と地域振興の両立に貢献していきたい。」と語っています。

谷地林業は、100年以上にわたる木炭製造のノウハウを活かし、林業と農業の新たな連携を切り拓くイノベーションに挑み続けています。

お問い合わせ先：有限会社 谷地林業

住所：岩手県久慈市山形町荷程部第3地割18番地

電話：0194-72-2221

Webページ：<https://www.yachiringyo.com/> 【外部リンク】



【バイオ炭を製造する密閉式炭化炉】
チップ化した林地残材を約1日かけて炭化後、炉内で約2日間かけて冷却する



【完成したバイオ炭】
チップ化することによって、炭化効率が良く、均一な炭ができる



バイオ炭を混合した牛ふん堆肥を、実証実験に活用している様子



バイオ炭の製造に取り組む有限会社谷地林業の谷地代表取締役（右）と源部雄裕シニアマネージャー

(写真：1,2,4枚目岩手県観光情報、3枚目有限会社谷地林業提供)

東北農政局

岩手地域からの便り(令和7年)より引用

https://www.maff.go.jp/tohoku/rin/tayori/iwate/r07_iwate.html

岩手県二戸市での 堆肥を活用したデントコーン生産

- 背景として、二戸エリアのタバコ農家減少により、堆肥の受け皿が無くなってきた。
- 二戸農業改良普及センターへ相談し、堆肥活用の道を探った。
- 地元酪農家と連携し、土壌診断・施肥設計・品種選定・薬剤選定・電気牧柵の設置を普及センターと連携。
- 令和7年から取り組み開始。初年度は雑草防除が課題となった。

ご清聴ありがとうございました



岩手めんこい黒牛

玄米育ち

黒毛和種×乳用種